

2008 年 10 月 1 日

報道各位

住友金属鉱山株式会社

CSR 活動としての体制整備について

当社はこのたび社会および環境に関する従来からの活動を CSR(Corporate Social Responsibility)活動として体系化し、全グループに展開することといたしました。

1. CSR 活動の目的

当社グループの CSR 活動の目的は「地球および社会との共存」です。

「地球との共存」に関しては、人類の急速な影響力の拡大に伴って、地球の有限性があらためて認識されているなか、健全な地球があってこそその企業活動であることを強く認識した事業活動を行ってまいります。

「社会との共存」に関しては、関係の強い 8 つのステークホルダーを定め交流を持ち、事業戦略や経営理念などをご理解していただくとともに、様々なご意見をいただき、それを当社の企業価値の向上に生かす取り組みを行ってまいります。

(8 つのステークホルダーについては、＜添付資料＞をご参照ください。)

2. 経営理念などの見直し

CSR 活動の開始に伴い、SMM グループ経営理念、SMM グループ経営ビジョンを見直し、CSR 方針を新たに制定しました。あわせて重点的に取り組む 6 分野とそれぞれの 2020 年のありたい姿も決めました。(具体的な内容は＜添付資料＞をご参照ください。)

特に SMM グループ経営理念には「地球および社会との共存」を明示しています。

3. 推進体制

CSR 活動を推進するために、社長を委員長とする CSR 委員会を設置しています。

この委員会はリスクマネジメントおよびコンプライアンスを担当する 2 つの分科会と、重点的に取り組む 6 分野に対応した 6 つの部会を下部機構として運営していきます。(詳しくは＜添付資料＞をご参照ください。)

4. 準備活動

CSR 活動を展開するにあたっては、去年の夏頃から準備を進めてまいりました。

取締役会メンバーによる方向性の検討、執行役員を中心とした 6 回に及ぶワークショップでの経営理念、ビジョンや将来のありたい姿などの検討、本社課長クラスによ

る世界の標準的な情報開示内容の調査、さらに新たに設置する 6 つの部会が前倒しで活動して 2020 年までのロードマップを検討してきました。

準備活動を進める上では、事業活動から離れないこと、グローバルに活動する企業集団であること、社会要請の視点を反映したものとするに、特に留意しました。

(詳しくはCSR報告書<http://www.smm.co.jp/csr/report.html>をご参照ください。)

5 . CSR 報告書の発行

当社は 2003 年から毎年、環境報告書を発行してまいりましたが、このたび CSR 活動を展開することにあわせ、新たに CSR 報告書として社会、環境、経済関連の活動を報告することといたしました。

SMM グループはコア事業である資源・金属事業においては「非鉄メジャークラス入り」を、もう一つのコア事業である半導体・機能性材料事業においては「商品ごとに世界トップクラスのシェア獲得」をめざしています。これらはまだ道半ばではありますが、着実に目標に向かって前進を続けています。

「地球および社会との共存」を図りながらこれらの目標を実現する、さらに SMM グループの成長が将来にわたって持続可能な社会の形成に貢献する、そのような経営を当社はめざしてまいります。

以上

(本件に関するお問合せ先)

広報 IR 部 大場浩正

TEL. 03-3436-7705

< 添付資料 >

1. 新経営理念など

《SMM グループ経営理念》

- ・ 住友の事業精神に基づき、地球および社会との共存を図り、健全な企業活動を通じて社会への貢献とステークホルダーへの責任を果たし、より信頼される企業をめざします
- ・ 人間尊重を基本とし、その尊厳と価値を認め、明るく活力ある企業をめざします

《SMM グループ経営ビジョン》

- ・ 独自技術を駆使してものづくり企業としての社会的な使命と責任を果たします
- ・ コンプライアンス、環境保全および安全確保を基本としたグローバルな企業活動により、非鉄金属、電子・機能性材料などの高品質な材料を提供し、企業価値の最大化をめざします

《CSR 方針》

1. 資源の有効利用およびリサイクルを推進するとともに、技術革新やエネルギー効率の継続的な改善などにより、地球温暖化対策に取り組みます
2. 国内外において地域に根ざした活動を積極的に推進し、地域社会との共存を図ります
3. 人権を尊重し、多様な人材が活躍する職場を整えます
4. 安全を最優先し、快適な職場環境の確保と労働災害ゼロを達成します
5. 多様なステークホルダーとのコミュニケーションを強化し、健全な関係を構築します

《重点 6 分野と 2020 年のありたい姿》

CSR重点分野	2020年のありたい姿
資源の有効活用	独自技術で資源を生み出す企業 ・低品位鉱、難処理鉱、都市リサイクル原料の処理技術による事業の展開
環境保全 CO2削減(省エネルギー) 生物多様性	先進技術を使って世界標準の温暖化対策を実行している企業 ・産廃物ゼロ ・環境低負荷製品の新製品に占める割合 50% (例、燃料電池、太陽電池)
地域貢献・社会貢献	社会貢献で高い評価を受ける企業
人権・人材の尊重	国籍、性別、身体、宗教などに関係なく勤労意欲のある人に均等に働く機会を与えられる企業 多様性を尊重(障害者 / 高齢者および女性活用機会の拡大)している企業
安全・衛生の確保	安全を最優先し、快適な職場環境を確保している企業 ・グループ労働災害ゼロ(協力会社も含む) ・職業性疾病ゼロ ・衛生保護具(耳栓、マスク)不要職場の実現 ・働く人が心身ともに健康で、明るく活力のある職場の実現
ステークホルダーとのコミュニケーション	地球規模ですべてのステークホルダーとコミュニケーションが図れる企業

2. ステークホルダー



<ステークホルダーから見た当社のあるべき姿>

【顧客】

技術、品質、納期、コストで他社に比べて優位性を持ち、総合的に競争力のある企業。

【株主】

効率経営と堅実なガバナンスにより企業価値増大をめざし、業績に見合う配当を実施し、適切な情報開示を行っている優良な投資先。

【従業員】

良好な労働環境を有し、組織内での個々人の役割が明確になっており、働くことにプライドが持てる企業。

【地域住民】

地域社会と共存し、地域社会の発展のために貢献する企業。

【債権者】

収益力があり、財務内容も優れ、信用力のある企業。

【ビジネスパートナー】

高い技術力を持つとともに、誠実で信用を重んじ、共栄できる企業。

【市民団体】

社会的責任に対する感度が高く、適切なコミュニケーションを行っている企業。

【行政】

コンプライアンスを徹底するとともに、事業を展開している国や地域の発展のために貢献する企業。

3. 推進体制

